論文公表実態調査報告

2025 年度

大学図書館コンソーシアム連合

（JUSTICE）

2026 年 3 月 19 日

目次

1. 調査の概要 ..... - 1 -
2. 調査方法 ..... - 1 -
3. 集計結果 ..... - 5 -
(1) 概要 ..... - 5 -
(2) 出版社別集計 ..... - 7 -
(3) 雑誌別集計 ..... - 11 -
(4) 著者所属機関別集計 ..... - 13 -
(5) 主題別集計 ..... - 15 -
(6) 助成機関別集計 ..... - 17 -
4. 調査結果の会員館での活用について ..... - 19 -
5. 調査における課題および今後の計画 ..... - 19 -
付録：調査の経緯 ..... - 20 -

1. 調査の概要

論文公表実態調査は，学術文献データベース Web of Science（以下「WoS」）より抽出した，Clarivate 提供の国立情報学研究所（以下「NII」）向け論文メタデータファイルを基に，大学図書館コンソーシアム連合（以下「JUSTICE」）が独自データを付加して分析した調査である。Clarivate から許諾を得た上で，調査結果を公開している。

本報告における用語の定義

本報告における主な用語の定義は，以下の通り。

■ APC

Article Processing Charges の略。論文掲載料，論文出版加工料，論文掲載加工料，論文処理費用，オープンアクセス（以下，「OA」）出版料，などと訳される。論文を OA にするための出版費用として，通常は著者が負担する。学会誌では，学会員と非会員とで APC の金額に差を設けたり，また出版社によっては，機関のパッケージ契約金額に応じて APC の割引サービスを行ったり，パッケージ購読と組み合わせた契約としたり，途上国の研究者に対し APC を免除したりするところもある。

■ フル OA 論文

すべての論文を OA で掲載する学術雑誌（Full Open Access Journal：フル OA 誌）に掲載された論文。

■ ハイブリッド OA 論文

フル OA 誌ではなく購読料を支払うことによって電子ジャーナルが利用できる学術雑誌（購読型雑誌）に掲載された論文で，著者の意思で（主に APC を支払うことによって）OA で公開されている論文。

フル OA 論文や，ハイブリッド OA 論文をまとめて「ゴールド OA 論文」と呼ぶ。
なお，ハイブリッド OA 論文を掲載する購読型雑誌のことを，特に「ハイブリッド誌」（Hybrid Open Access Journal）と呼ぶ場合がある。

■ ブロンズ OA 論文

購読型雑誌に掲載された論文で，著者の意思とは関係なく出版社のサイトで無料公開されているが，OA ライセンスが付与されていない論文。ブロンズ OA 論文には，掲載後一定期間を経て OA となる遅延型の OA 論文なども含む。

2. 調査方法

調査にあたっては，JUSTICE の外部から購入したデータと JUSTICE が独自に調査して作成したデータの 2 種類のデータを用いた。

(1) 外部データ

WoS に 2025 年 2 月 10 日時点で収録されており以下の条件を満たす論文データ。

- 論文出版年が 2020 年から 2024 年

・ ドキュメントタイプ[1]が，”Article”，”Review”
・ 責任著者所属機関所在国が，”Japan”

(2) 作成データ

① APC 価格表

各出版社のウェブサイトに掲載されている APC の価格を調査し，タイトル単位での APC 価格リストを作成した。過去に収集した APC 価格リストに掲載されているタイトルはできるだけ出版年に近い APC 価格を用いた。

APC 価格については，出版社のウェブサイトの価格表を基本とし，DOAJ サイト[2]のデータなどを参考にした。それでも価格が不明なタイトルについては，一律 2,000 ユーロ（MPDL の白書[3]で試算に使用されている APC 価格）とした。

② 機関名寄せ表

WoS の所属機関名に揺れがあることから，所属機関名を名寄せするリストを作成した。併せて，国内の大学かどうか，JUSTICE 会員館かどうか，等の判定のデータも追加した。

③ 出版社名寄せ表

WoS の出版社名に揺れがあることから，出版社名を名寄せするリストを作成した。

④ 為替レート表

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングのサイト[4]の外国為替相場データを参考に，各年の通貨毎の平均為替レートリストを作成した。このサイトに掲載されていない通貨については，他のウェブサイトに掲載されていた為替レートを参考に為替レートを設定した。

⑤ 主題分類表

WoS の研究分野を，13 の主題と，それ以外の主題を「その他」に集約した分類のリストを作成した。

⑥ 助成機関表

WoS の助成機関名に揺れがあることから，主に国内助成機関名を名寄せするリストを作成した。

(3) データ加工

・ WoS データの各論文に付されていた OA フラグと，APC 価格表を基に，データを加工した。

---

[1] 複数のドキュメントタイプが付与される論文があり，その中に”Article”または”Review”が含まれる論文を抽出対象としている。

[2] DOAJ：Directory of Open Access Journals. https://doaj.org/（最終アクセス 2026.3.9）

[3] Schimmer, Ralf et al. Disrupting the subscription journals' business model for the necessary large-scale transformation to open access. Max Planck Digital Library, 2015-04-28, 11p. https://dx.doi.org/10.17617/1.3（最終アクセス 2026.3.9）
田村香代子訳.(訳)オープンアクセスへの大規模な転換のための購読型ジャーナルのビジネスモデルの破壊 ：マックスプランクデジタルライブラリ オープンアクセス白書. 大学図書館研究. 2018, 109, 9p. https://doi.org/10.20722/jcul.2012（最終アクセス 2026.3.9）

[4] 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング. https://www.murc.jp/ （最終アクセス 2026.3.9）

① OA フラグに「GOLD[5]」が付された論文：フル OA 誌掲載のフル OA 論文とした。
② OA フラグに「GOLD-HYBRID[6]」が付された論文：ハイブリッド誌掲載のハイブリッド OA 論文とした。
③ OA フラグに「FREE TO READ[7]」が付された論文：購読型雑誌掲載のブロンズ OA 論文とした。
④ それ以外の論文：購読型雑誌掲載の非 OA 論文とした。

なお，複数の OA フラグが付されている論文については，①から順に優先して判断を行った。

- 責任著者を APC 支払者とみなし，各論文の APC 支払推定額は，APC 価格リストを基に算出した（論文出版時点の APC 価格が不明なタイトルが多いため，論文出版年に設定されていた APC の価格とは異なる）。原価から円価への換算は，論文出版年の年間平均為替レートを用いた。
- APC の価格がページ数で決まるタイトルについては WoS のページ数を使用して算出した。

(4) 集計方法

- 出版年が 2020 年以降の論文データを，1 年単位で集計した。
- 公表論文数，OA 論文数および APC 支払推定額等について，出版社別，雑誌別，著者所属機関別，主題別，助成機関別に集計した。

なお，本調査の集計結果に関しては，2024 年度までの調査結果と値の差異がみられる。理由として，WoS の論文データの追加・削除や修正，OA フラグの変更 [8]などが挙げられる。また MDPI と Elsevier の論文は，次に示す注意事項も参照のこと。

---

[5] Web of Science Help Center ページ https://webofscience.zendesk.com/hc/en-us/articles/20016332411281-Open-Access （最終アクセス 2026.3.9）では，以下のように定義されている。
・Identified as having a Creative Commons (CC) license by OurResearch Unpaywall Database.
・All articles in these journals must have a license in accordance with the Budapest Open Access Initiative to be called Gold.

[6] Web of Science Help Center ページでは，以下のように定義されている。
・Items identified as having a Creative Commons (CC) license by OurResearch but that are not in journals where all content is Gold.
・Hybrid Gold open access status is at varying levels of completeness, especially for newly published articles.

[7] Web of Science Help Center ページでは，以下のように定義されている。
・The licensing for these articles is either unclear or identified by OurResearch as non-CC license articles. These are free-to-read or public access articles located on a publisher's site.
・A publisher may, as a promotion, grant free access to an article for a limited time. At the end of the promotional period, access to the article may require a fee which can lead to temporary errors in our data. You may find content that is incomplete, especially new content.

[8] 2022 年 7 月に WoS の OA 区分の変更が行われている。そのため 2021 年度調査までと雑誌自体の OA 区分の判定が変更になっている。

2025 年度調査報告における OA 区分に係る注意事項

■ MDPI

フル OA 誌出版社であるため同社論文はすべてフル OA 区分となるはずであるが，基としたメタデータには非 OA 区分の論文データが多数含まれていた。メタデータ提供元の Clarivate へ確認した結果，これは WoS と Unpaywall とのデータ連携のタイミング等に因るものと思われ，JUSTICE 事務局内集計作業において，MDPI 論文はすべてフル OA 区分とする補正を行った。

■ Elsevier

基としたメタデータにおいて，Elsevier のブロンズ OA 論文数が，実際より多い集計結果となっている可能性が高く，特に出版年 2021～2023 で顕著である。メタデータ提供元の Clarivate へ確認した結果，2024 年 4 月に Elsevier が OA タグ付けポリシー変更を発表した後 [9]これに対応した大幅なデータ修正を行ったと思われ，その影響と推測される。本調査報告利用の場合，Elsevier の 2021～2023 年ブロンズ OA 論文数については注意が必要である。

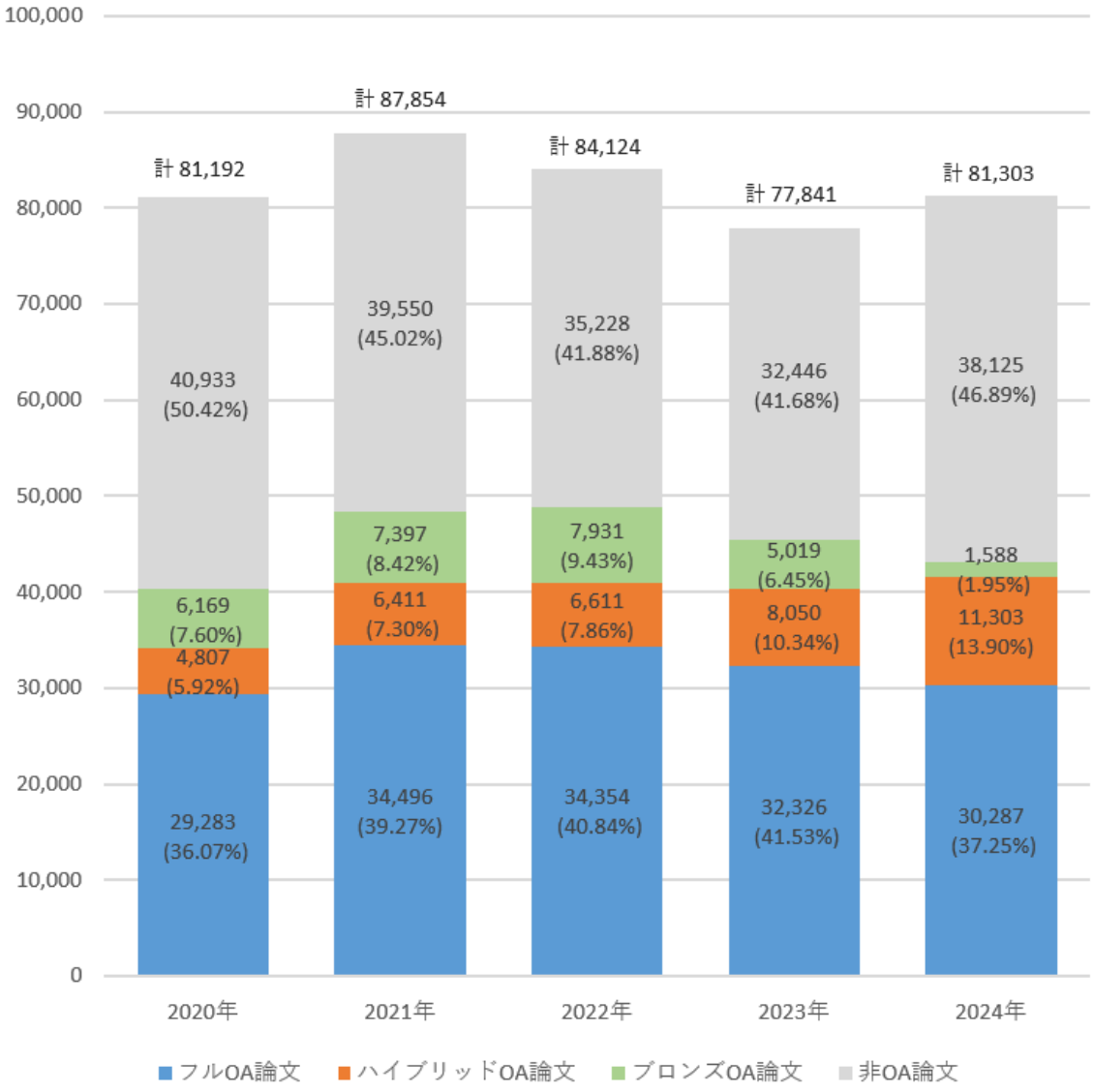
[9] Elsevier. Changes to Scopus Open Access (OA) document tagging. 2024, https://blog.scopus.com/changes-to-scopus-open-access-oa-document-tagging/（最終アクセス 2026.3.9）

3. 集計結果

(1) 概要

① 公表論文数，OA 論文数の推移

国内機関所属の著者が責任著者となった論文の公表論文数を，OA 種別ごとに集計した。2021 年以降，OA 論文数が非 OA 論文数を上回る状況が続いている。また 2024 年は大手出版社の国内機関転換契約の広がりや文科省「OA 加速化事業」実施の影響等もあってか，特にハイブリッド OA 論文数の増加が大きい。

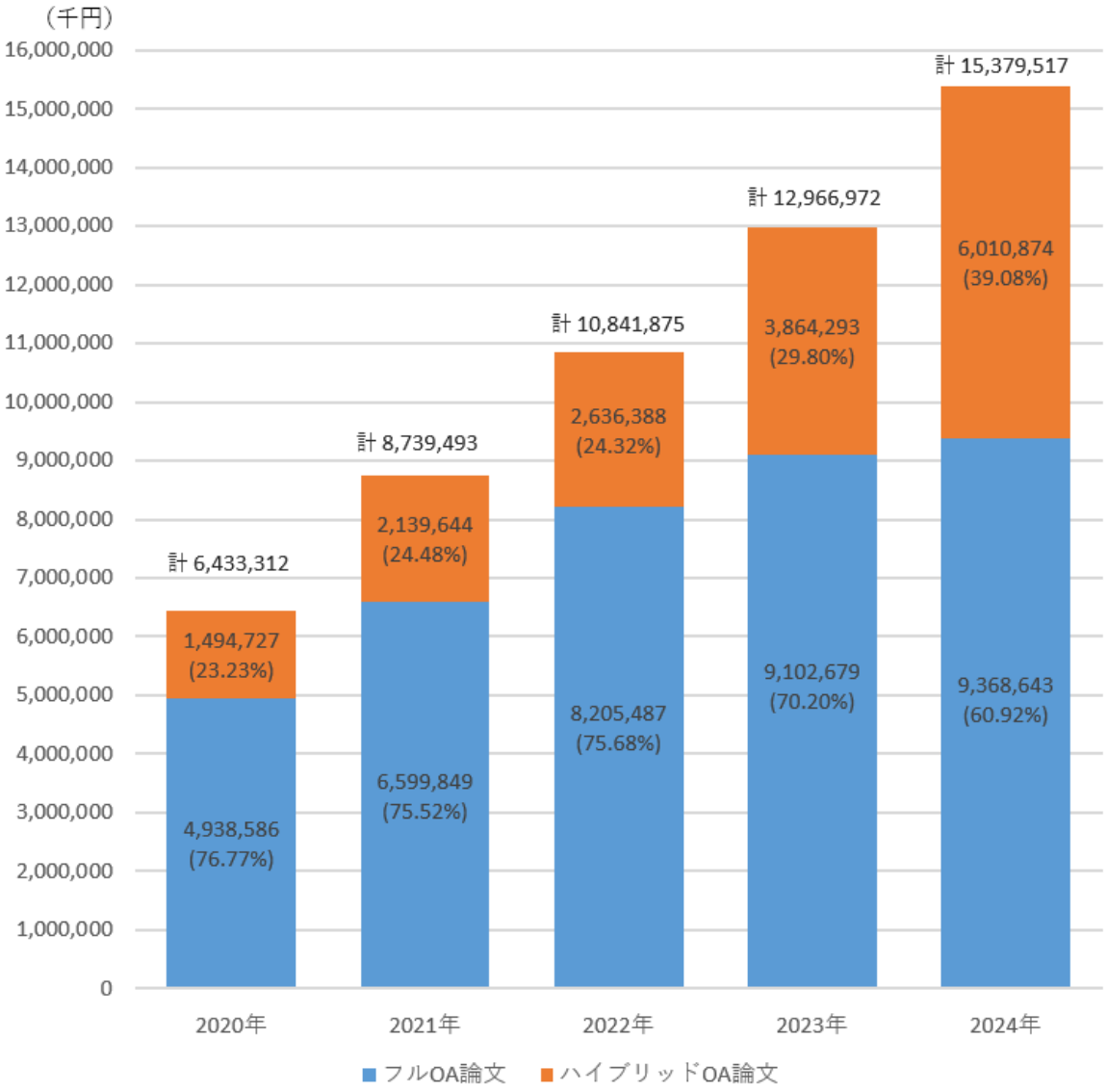


【注】WoS でハイブリッド OA 論文と判定されるにはタイムラグがあるため，ハイブリッド OA 論文数はデータ抽出時に近い出版年であるほど実際より少なく集計されている可能性がある。

【注】ブロンズ OA 論文には遅延型 OA 論文や，出版社の判断で OA／非 OA となる論文もあるため，論文数は将来大きく増減する可能性がある。

② APC 支払推定額の推移，および各年の内訳

国内機関所属の著者が責任著者となった論文の APC 支払推定額を，OA 種別ごとに集計した。



【注】金額には，APC 単価の変動や外国為替の変動（円高／円安）の影響がある。

【注】WoS でハイブリッド OA 論文と判定されるにはタイムラグがあるため，ハイブリッド OA 論文への APC 支払推定額はデータ抽出時に近い出版年であるほど実際より少なく集計されている可能性がある。

【注】古い年の APC 価格は当時の価格が不明なものが多い。できるだけ出版年に近い APC 価格を用いているが，APC 価格は上昇傾向にあるため，古い年の APC 支払推定額は実際より多く集計されている可能性がある。

(2) 出版社別集計

出版社に関しては以下のような状況にあるが，WoS の記載を基に，別出版社として集計を行った。

- BioMed Central は Springer が 2000 年に買収
- Frontiers は Nature が 2013 年に買収
- Springer と Nature は 2015 年 5 月に合併が完了（区別できない分については，SpringerNature として集計）
- Dove Press は Taylor & Francis が 2017 年に買収
- Atlantis Press は SpringerNature が 2021 年に買収
- Hindawi は John Wiley & Sons が 2021 年に買収。なお 2022 年に査読に係る不正の形跡が確認され，2022-2023 年，掲載論文の大規模な撤回が行われた。Wiley は 2023 年末に Hindawi ブランド廃止を決定している [10]。
- Cureus は SpringerNature が 2022 年に買収

① 公表論文数（2024 年，上位 10 社）

順位	出版社名	公表論文数	OA 論文数（ブロンズ OA 含）	APC 支払推定額（円）
1	ELSEVIER	13,628	5,035	2,230,125,376
2	JOHN WILEY & SONS	9,661	4,919	2,227,938,282
3	SPRINGER	9,064	3,135	1,618,124,840
4	MDPI AG	5,403	5,403	2,315,086,978
5	OXFORD UNIV PRESS (OUP)	3,202	1,662	601,707,928
6	SPRINGERNATURE	2,976	2,332	402,925,852
7	TAYLOR & FRANCIS INC	2,780	830	307,226,601
8	AMER CHEMICAL SOC (ACS)	2,632	519	226,802,650
9	NATURE PUBLISHING GROUP (NPG)	2,402	2,107	1,131,986,954
10	IEEE	1,827	857	266,133,778
その他		27,728	16,379	4,051,457,628
合計		81,303	43,178	15,379,516,867

国内からの公表論文数は上位 10 社で約 66%を占めている。
国内からの APC 支払推定額は上位 10 社で約 74%を占めている。

[10] 佐藤翔. オープンアクセス雑誌における特集号（Special Issue）の問題（Issue）. 情報の科学と技術. 2024, 74(7), p267-270. https://doi.org/10.18919/jkg.74.7_267（最終アクセス 2026.3.9）

② フル OA 論文への APC 支払推定額（2024 年，上位 10 社）

順位	出版社名	公表 論文数	フル OA 論文数	**フル OA APC 支払 推定額**（円）
1	MDPI AG	5,403	5,403	2,315,086,978
2	NATURE PUBLISHING GROUP (NPG)	2,402	2,053	1,038,500,980
3	JOHN WILEY & SONS	9,661	2,382	970,885,375
4	ELSEVIER	13,628	2,013	711,761,709
5	FRONTIERS MEDIA SA	1,352	1,238	617,473,559
6	BIOMED CENTRAL LTD (BMC)	1,590	1,432	615,488,671
7	OXFORD UNIV PRESS (OUP)	3,202	857	276,819,891
8	SPRINGER	9,064	791	269,276,882
9	SPRINGERNATURE	2,976	1,993	197,893,753
10	PUBLIC LIBRARY SCIENCE (PLOS)	674	623	179,154,951
その他		31,351	11,502	2,176,299,757
合計		81,303	30,278	9,368,642,506

【注】MDPI，FRONTIERS，BMC，PLOS は主にフル OA 誌を出版する出版社である。

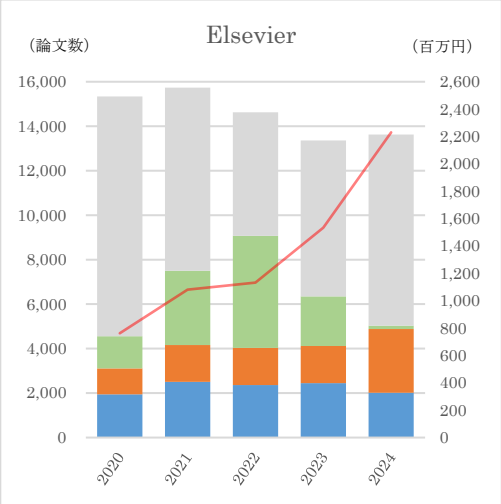
③ ハイブリッド OA 論文への APC 支払推定額（2024 年，上位 10 社）

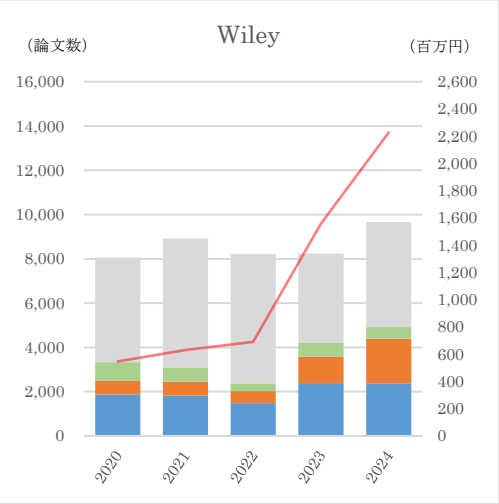
順位	出版社名	公表 論文数	ハイブリッド OA 論文数	**ハイブリッド OA APC 支払 推定額**（円）
1	ELSEVIER	13,628	2,866	1,518,363,667
2	SPRINGER	9,064	2,322	1,348,847,958
3	JOHN WILEY & SONS	9,661	2,013	1,257,052,907
4	OXFORD UNIV PRESS (OUP)	3,202	669	324,888,037
5	ROYAL SOC CHEMISTRY(RSC)	1,396	403	222,680,008
6	SPRINGERNATURE	2,976	330	205,032,099
7	TAYLOR & FRANCIS INC	2,780	367	195,346,961
8	AMER CHEMICAL SOC(ACS)	2,632	316	159,713,740
9	IOP PUBLISHING LTD(IOP)	1,691	308	96,583,444
10	NATURE PUBLISHING GROUP (NPG)	2,402	54	93,485,974
その他		31,871	1,655	588,879,566
合計		81,303	11,303	6,010,874,361

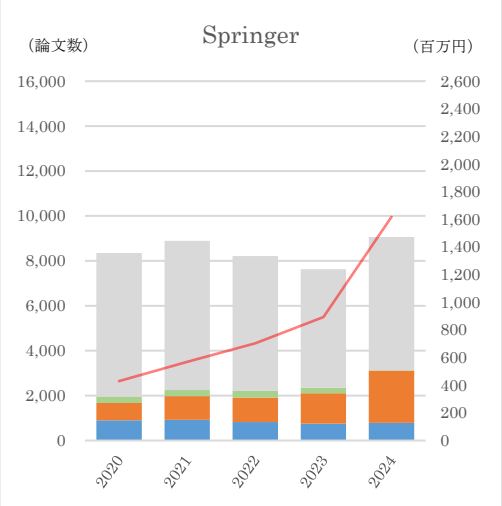
【注】国内の大学等と転換契約を締結している出版社が含まれるが，APC 支払推定額の集計では考慮していない。

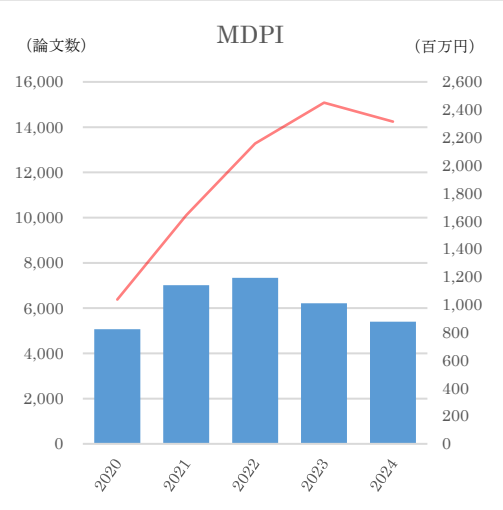
④ 主要出版社別　論文数の推移および各年の内訳，APC 支払推定額の推移

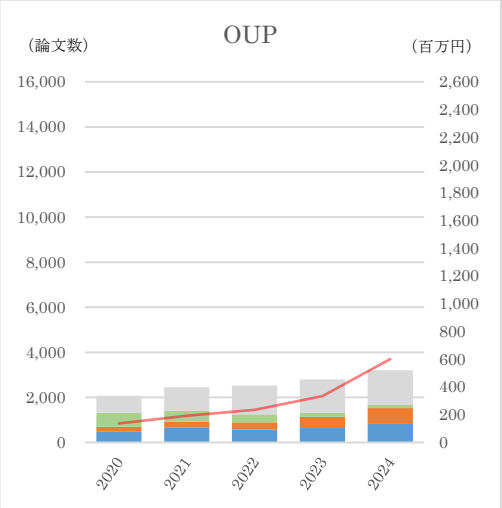
2024 年公表論文数上位 10 社の論文数の推移と各年の内訳，APC 支払推定額をグラフにした。

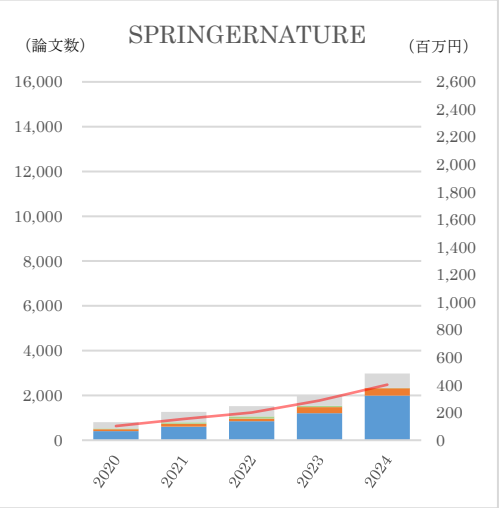


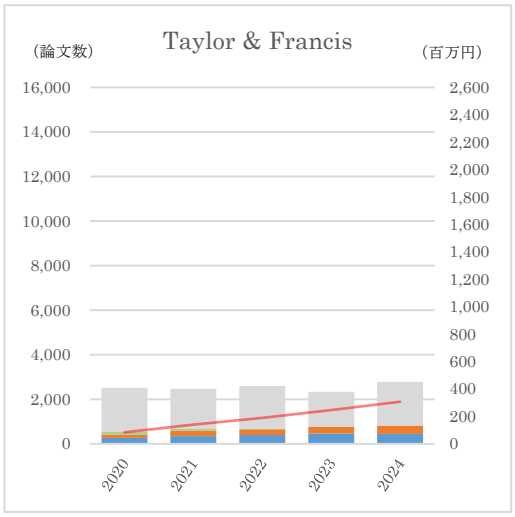


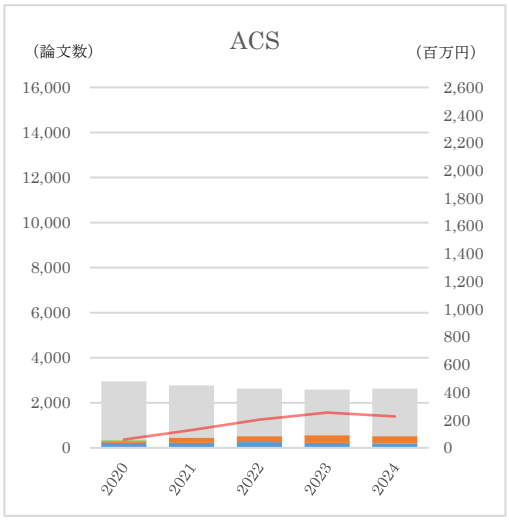


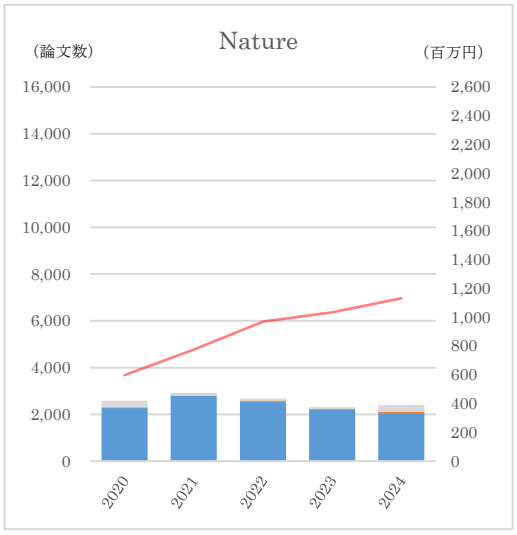


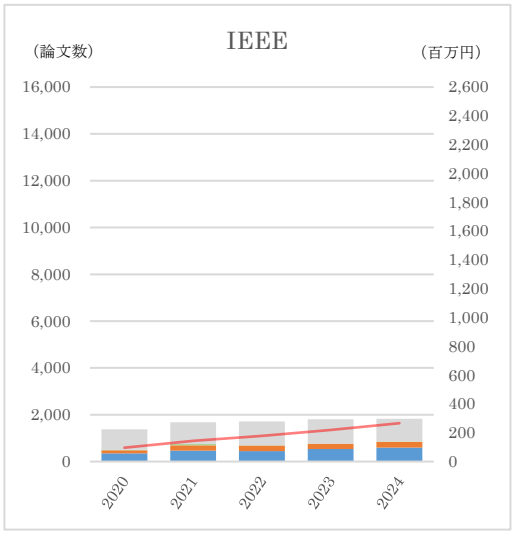





Taylor & Francis
（論文数）
（百万円）
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
2,600
2,400
2,200
2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
2020
2021
2022
2023
2024


ACS
（論文数）
（百万円）
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
2,600
2,400
2,200
2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
2020
2021
2022
2023
2024


Nature
（論文数）
（百万円）
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
2,600
2,400
2,200
2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
2020
2021
2022
2023
2024


IEEE
（論文数）
（百万円）
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
2,600
2,400
2,200
2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
2020
2021
2022
2023
2024

フル OA 論文
ブロンズ OA 論文
APC 支払推定額（百万円）
ハイブリッド OA 論文
非 OA 論文

(3) 雑誌別集計

① 公表論文数（2024 年，上位 10 誌）

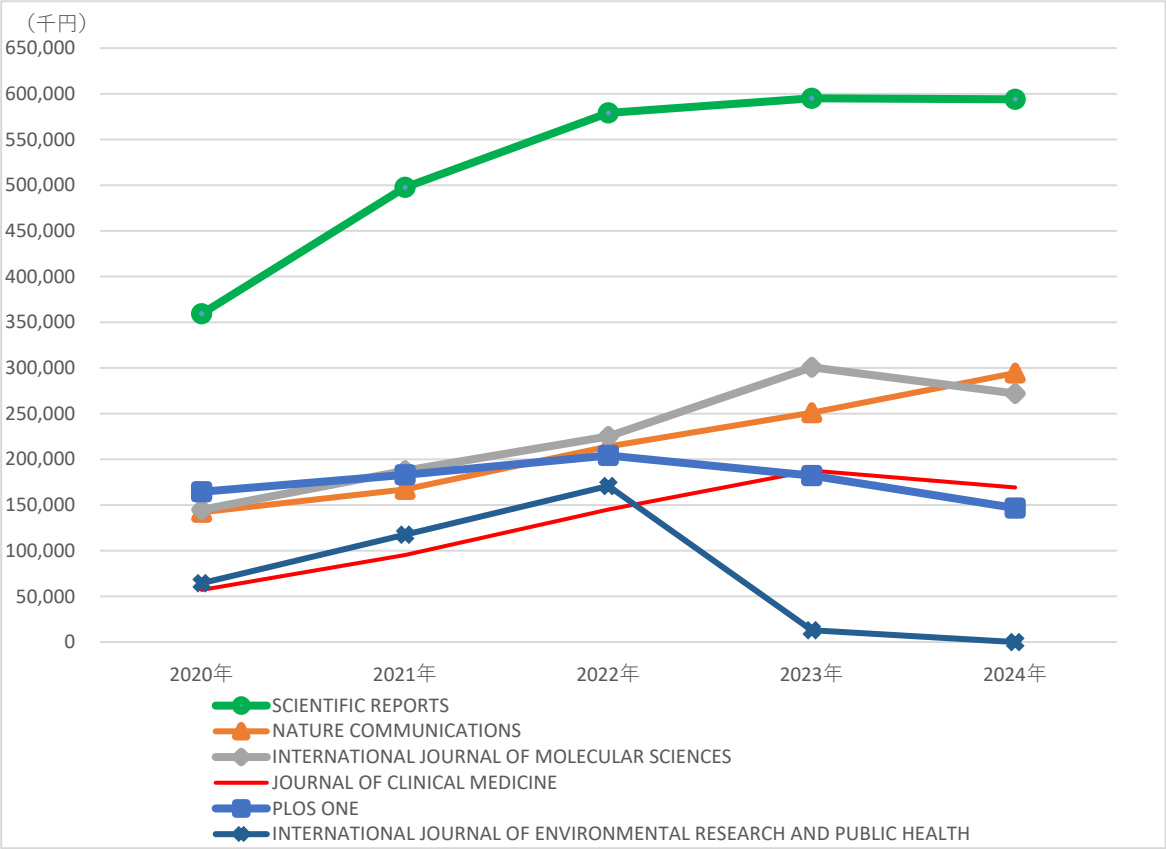
順位	雑誌名	公表論文数	OA 論文数（ブロンズ OA 含）	APC 支払推定額（円）
1	SCIENTIFIC REPORTS	1,629	1,502	593,991,434
2	CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE	1,553	1,551	0
3	JAPANESE JOURNAL OF APPLIED PHYSICS	695	307	36,330,000
4	PLOS ONE	608	561	146,648,205
5	INTERNAL MEDICINE	606	508	0
6	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES	542	542	272,015,708
7	IEEE ACCESS	522	487	145,001,815
8	JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE	376	376	169,183,456
9	PHYSICAL REVIEW B	370	18	7,571,880
10	NATURE COMMUNICATIONS	306	284	294,441,260
その他		74,096	37,042	13,714,333,109
合計		81,303	43,178	15,379,516,867

【注】フル OA 誌 Cureus Journal of Medical Science は，APC は必要ないが，書式エラーや言語のエラーなどがある場合は査読の前に「Cureus' Preferred Editing service」と呼ばれるサービスを購入する必要がある。

【注】フル OA 誌 Internal Medicine は，投稿時に投稿料（300 ドル）が必要だが，筆頭著者が日本内科学会員である場合は免除されるため，APC を 0 円として集計した。

② APC 支払推定額推移（2020－2024 年，上位 5 誌）

2020 年から 2024 年の間に APC 支払推定額で一度でも上位 5 誌になったことのある雑誌について，2020 年からの APC 支払推定額推移をグラフにした。



【注】International Journal of Environmental Research and Public Health は，2023 年 3 月 WoS 対象誌リスト外となった [11]。

[11] Petrou, Christos. Reputation and Publication Volume at MDPI and Frontiers. 2023. https://scholarlykitchen.sspnet.org/2023/09/18/guest-post-reputation-and-publication-volume-at-mdpi-and-frontiers-the-1b-question/ （最終アクセス 2026.3.9）

(4) 著者所属機関別集計

① 公表論文数（2024 年，JUSTICE 会員館上位 20 機関）

		OA 論文数			APC 支払 推定額（円）	
機関名 （日本語）	公表 論文数	フル OA	ハイブリッド OA	ブロンズ OA	フル OA	ハイブリッド OA
東京大学	4,697	1,498	1,326	58	543,925,523	748,738,684
京都大学	3,072	832	440	47	282,548,816	242,903,570
大阪大学	2,579	853	559	63	304,688,123	304,431,191
東北大学	2,396	780	688	29	283,846,826	371,617,251
九州大学	1,986	628	260	51	215,168,927	137,641,601
北海道大学	1,948	629	167	45	206,880,808	79,535,386
東京科学大学	1,927	623	391	53	220,930,709	202,305,074
名古屋大学	1,907	569	379	36	186,968,624	204,185,828
広島大学	1,527	542	311	26	170,088,227	174,258,377
慶應義塾大学	1,296	507	255	17	167,447,467	142,089,235
筑波大学	1,289	461	112	25	146,671,798	59,331,605
神戸大学	1,064	330	154	27	104,623,412	83,408,764
千葉大学	928	384	141	22	129,096,626	77,886,076
大阪公立大学	921	322	90	16	92,917,097	47,828,420
岡山大学	902	317	177	21	106,891,330	102,255,215
早稲田大学	887	230	210	37	68,533,319	106,990,093
金沢大学	722	255	91	24	87,844,926	49,160,398
順天堂大学	674	353	65	5	123,727,555	35,932,308
東京理科大学	611	189	164	10	55,871,373	85,483,814
日本大学	579	203	52	13	61,758,165	24,840,140
その他会員館	32,128	12,770	3,374	646	3,812,876,825	1,737,850,620
会員館以外	17,263	7,012	1,897	317	1,995,336,030	992,200,711
合計	81,303	30,287	11,303	1,588	9,368,642,506	6,010,874,361

【注】統合した大学は統合前の大学名と統合後の大学名で別々に集計している場合がある。

② 公表論文数（2023 年，JUSTICE 会員館上位 20 機関）

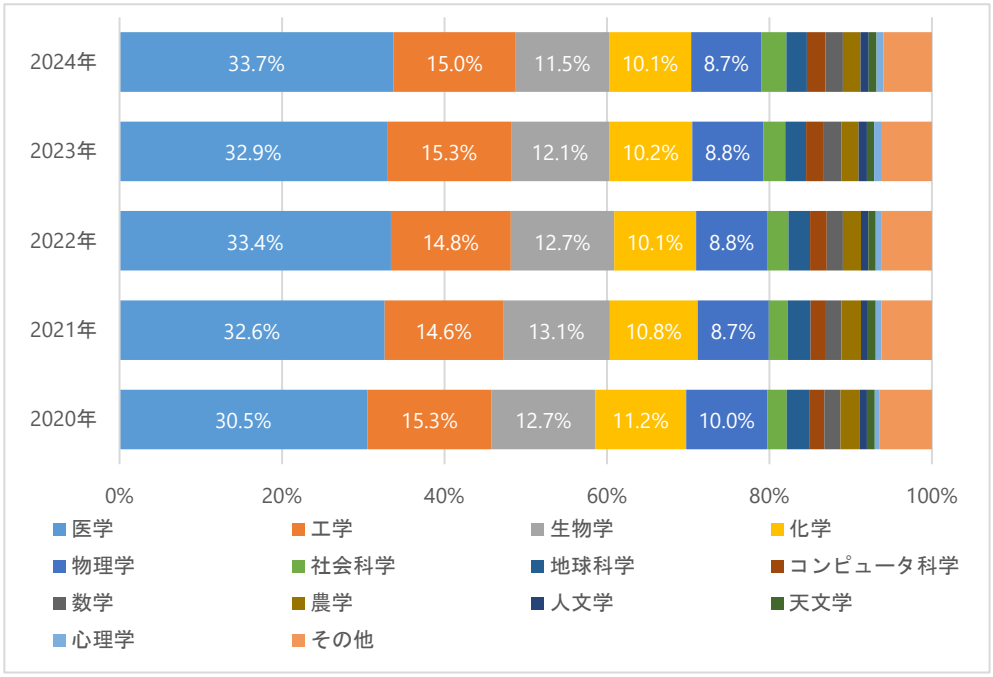
		OA 論文数			APC 支払 推定額（円）	
機関名 （日本語）	公表 論文数	フル OA	ハイブリッド OA	ブロンズ OA	フル OA	ハイブリッド OA
東京大学	4,243	1,558	819	270	519,352,453	428,159,652
京都大学	3,040	983	351	179	302,116,657	177,829,790
大阪大学	2,436	878	344	162	270,790,861	169,564,910
東北大学	2,387	875	348	206	259,217,407	169,550,606
北海道大学	2,037	773	168	174	229,428,089	77,014,662
東京科学大学	1,950	714	342	101	213,564,407	179,374,419
名古屋大学	1,843	609	177	149	177,608,973	82,959,634
九州大学	1,835	622	145	162	180,051,582	70,838,522
広島大学	1,383	543	103	68	157,631,501	45,970,484
筑波大学	1,314	591	93	114	170,298,168	43,851,229
慶應義塾大学	1,297	530	196	88	172,425,707	96,707,358
神戸大学	988	360	103	84	99,825,755	48,168,253
千葉大学	879	414	48	63	123,654,078	21,607,674
大阪公立大学	864	312	61	82	83,786,838	28,118,039
岡山大学	861	344	103	35	102,608,602	50,376,325
早稲田大学	804	245	140	56	67,713,670	63,505,939
金沢大学	668	275	63	67	93,005,776	30,714,560
順天堂大学	634	331	58	31	101,446,739	28,094,138
東京理科大学	580	232	125	27	62,012,885	64,059,029
日本大学	556	276	29	26	69,168,687	14,096,185
その他会員館	30,522	13,522	2,467	2,062	3,744,927,877	1,128,763,510
会員館以外	16,720	7,339	1,767	813	1,902,041,986	844,968,092
合計	77,841	32,326	8,050	5,019	9,102,678,698	3,864,293,010

【注】統合した大学は統合前の大学名と統合後の大学名で別々に集計している場合がある。

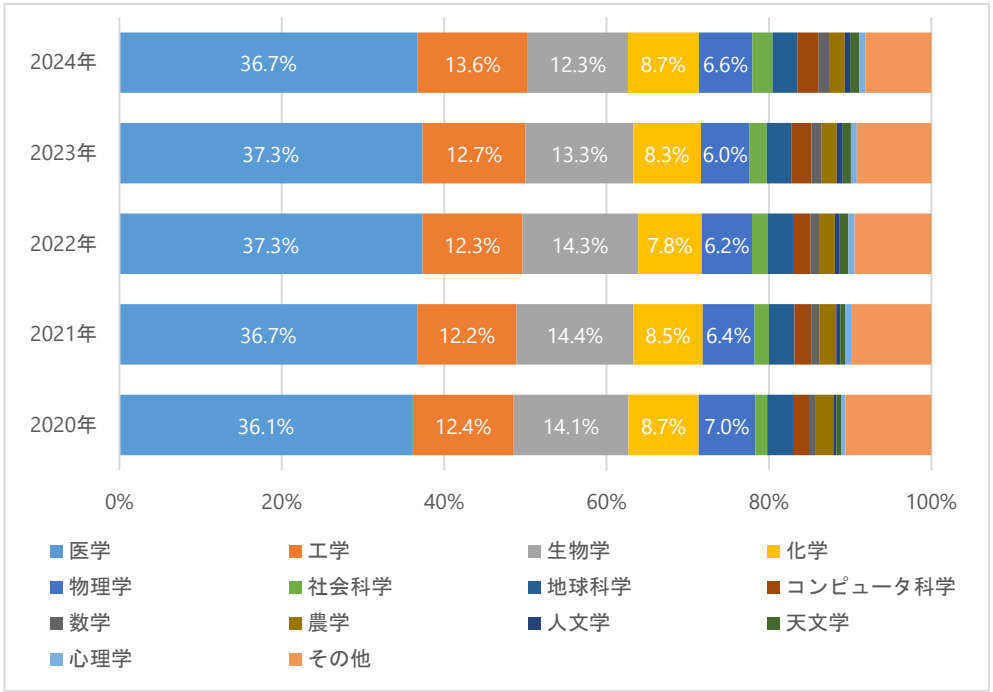
(5) 主題別集計

WoS の研究分野は，原則雑誌毎に付与している。研究分野を複数付与している場合があり，主題別の公表論文数や APC 支払推定額を合計すると，3(1)概要で示した公表論文数や APC 支払推定額を上回るため，公表論文数や APC 支払推定額の集計はせずに，公表論文数の比率での集計を行った。

① 公表論文数主題別比率

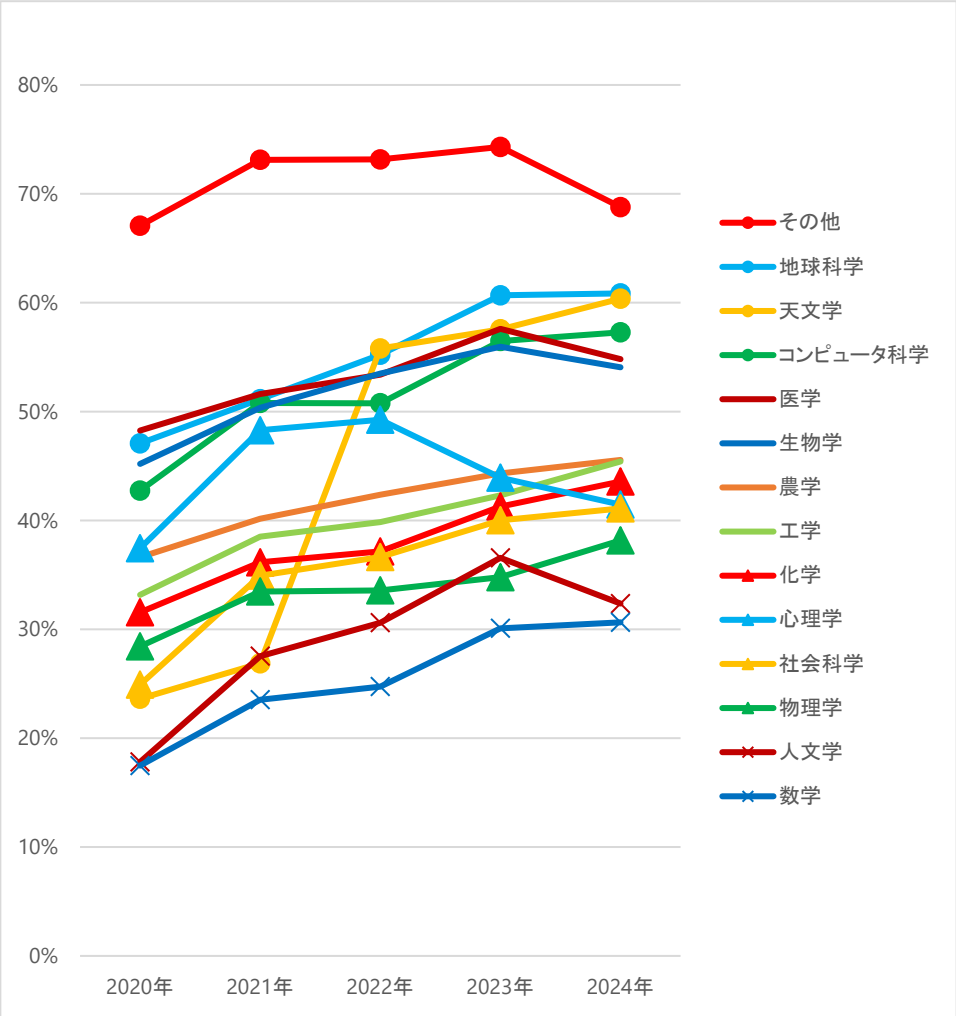


② ゴールド OA 論文数主題別比率



③ 主題別ゴールド OA 論文率推移

主題ごとのゴールド OA 論文率（公表論文数に占めるゴールド OA 論文数の割合）の推移



【注】Scientific Reports や PLOS One など，日本からの論文出版が多いフル OA 誌が「その他」の主題に分類されている。

(6) 助成機関別集計

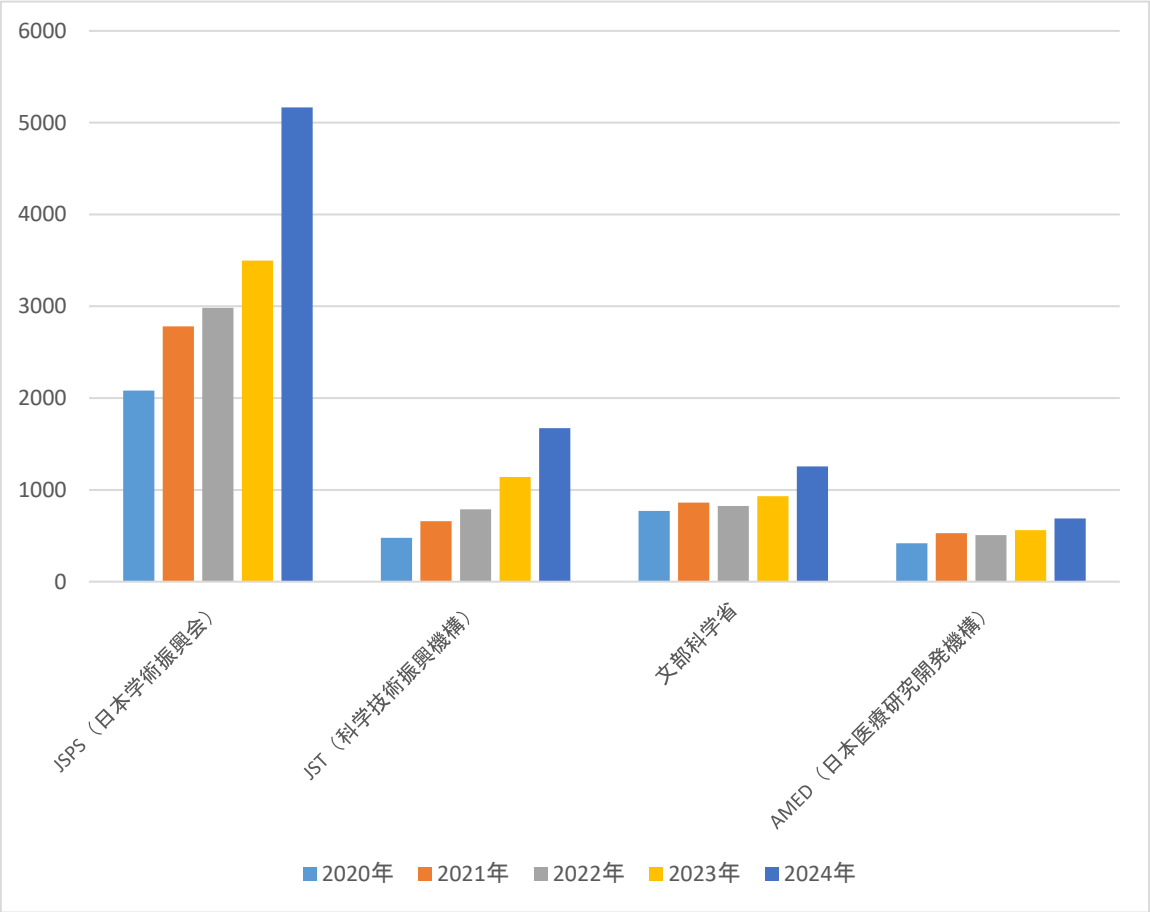
WoS は論文毎に助成機関名を付与している。助成機関名は府省名，配分機関名，制度名など様々なレベルで付与され，また一論文に対して複数付与されている場合がある。たとえば「科研費（科学研究費助成事業）」の助成による論文について，制度名のほかに，「文部科学省」付与，「JSPS（日本学術振興会）」付与，双方付与のケース等があり得る。ここでは国内助成機関について府省名と配分機関名等の重複を分けることはせず，制度名を除き，付与数を数えて公表論文数 100 件以上を表とした。

① 公表論文数（2024 年）

助成機関名	公表論文数	フル OA	ハイブリッド OA	ブロンズ OA	非 OA
JSPS（日本学術振興会）	31,120	10,280	5,166	672	15,002
JST（科学技術振興機構）	8,271	2,623	1,673	192	3,783
文部科学省	7,657	2,859	1255	134	3,409
AMED（日本医療研究開発機構）	3,955	1,760	688	59	1,448
厚生労働省	1,388	552	220	30	586
NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）	1,177	301	242	39	595
環境省	392	158	87	9	138
環境再生保全機構	373	134	75	5	159
NARO（農業・食品産業技術総合研究機構）	354	178	47	5	124
農林水産省	217	85	32	3	97
内閣府	207	85	41	3	78
NICT（情報通信研究機構）	177	71	30	11	65
経済産業省	165	46	29	2	88
総務省	138	56	16	13	53
宇宙航空研究開発機構	105	29	24	3	49

【注】表記の揺れや誤りがある場合も可能な範囲で集計の対象とした。

② ハイブリッド OA 論文数の推移



ハイブリッド OA 論文数の推移を，直近の 2024 年で 500 件以上の主要助成機関毎にグラフ化した。2024 年は Elsevier や SpringerNature 等の大手出版社による転換契約が国内で広がった年で，さらに文科省の「OA 加速化事業」も実施された。これらの影響等もあってか，3(1)でも見たとおりハイブリッド OA 論文数がこの年に大きく伸びている。グラフにあげた機関は「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」[12]（即時 OA 方針）において，公的資金による学術論文等の即時 OA 義務化実施対象となった，競争的研究費制度の実施機関であり，2025 年以降は転換契約の拡大を含めた即時 OA 方針の直接的・間接的影響が，さらに顕著となることも考えられる。

[12] 統合イノベーション推進会決定．学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針　令和 6 年 2 月 16 日．2024，https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

4. 調査結果の会員館での活用について

各会員館の機関毎のデータを抽出し，出版社別，雑誌別に集計した個別データの提供を行っている。JUSTICE 会員館限定ページで申請方法を紹介しており，必要に応じて申請していただきたい。

なお，各会員館に提供する個別データには「グリーン OA」か否かのフラグ [13]も付与している。また，APC 価格表や出版社等の名寄せ表を会員館限定ページに掲載している。各会員館で独自に分析を行う際の参考としていただきたい。

5. 調査における課題および今後の計画

本調査は，国内研究者の論文公表数データを継続的に取得・集計し，会員館による個別データの活用も可能とするなど，JUSTICE という組織にとっても各会員館にとっても，重要な価値を有している。JUSTICE では OA 推進作業部会を中心として，2024 年度から会員館を対象とした「転換契約に関するアンケート調査」を実施しており，今後はこうした調査とのクロス集計等，より詳細な分析のための集計方法の検討を行いたい。OA の多角的把握に資する重要な調査の 1 つとして，即時 OA 方針で打ち出された即時 OA 義務化等に伴う調査結果の変化も注視しつつ, 公的資金に係る OA の状況もさらに把握を進めたい。

また本調査が有する価値の 1 つとしてもう 1 点, APC 支払推定額の算出が挙げられる。算出にあたり，APC 不明タイトルの APC を一律 2,000 ユーロに設定している。しかし，数値の根拠とした MPDL 白書公開（p2 参照）から 10 年が経過し，その間 APC 単価も上昇傾向にあることから，設定価格の見直しも検討したい。OpenAPC [14] などの APC 価格の推移や，大手 6 出版社の APC に関する公開データセット [15], DeltaThink 社の APC トレンド分析 [16]といった複数のデータを参考情報として, 適切な数値を検証していく。

国内の OA 論文公表状況の概況把握にとって，現在の調査は有用であるため，今後も継続して外部データの購入，独自のデータ作成を行い，調査を行う予定である。

以上

---

[13] WoS の OA フラグに「GREEN PUBLISHED」「GREEN ACCEPTED」「GREEN SUBMITTED」が記載された論文に付与した。

[14] OpenAPC. https://openapc.net/（最終アクセス 2026.3.9）

[15] Butler, L. A. et al. An open dataset of article processing charges from six large scholarly publishers (2019–2023). arXiv. 2025, https://arxiv.org/pdf/2406.08356（最終アクセス 2026.3.9）

[16] Pollock, Dan et al. News & Views: Open Access Charges – Price Increases Back on Trend. Delta Think, Inc., 2025, https://www.deltathink.com/news-views-open-access-charges-price-increases-back-on-trend （最終アクセス 2026.3.9）

付録：調査の経緯

JUSTICE では，購読条件に関する出版社との交渉に注力してきたが，設立数年後には，APC 支払によるゴールド OA の進展を踏まえ，購読料と APC による包括的な交渉が必要であるとの認識に至った。そこで，NII の国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）運営委員会（2019 年度に学術情報流通推進委員会に改称，2021 年度末をもって活動終了）と合同で，2015 年度に「論文公表実態調査チーム」を発足させ，日本の研究機関に所属する研究者の公表論文数，OA 率および APC 支払推定額の調査を行うこととした。以下，調査実施年度ごとに概要を記載する。

- 2016 年度調査結果は，2016 年度 JUSTICE 総会の第 2 部において，当時 JUSTICE 作業部会委員であった砂押久雄氏により報告[17]された。
- 2017 年度調査結果は，当時 JUSTICE 事務局長であった小陳左和子氏および事務局員であった矢野恵子氏により報告[18]された。
- 2018 年度調査結果は，2019 年 5 月に「論文公表実態調査報告：2018 年度（会員館限定版）」[19]（詳細な EXCEL データを添付した報告書）と「論文公表実態調査報告：2018 年度（公開版）」[20]（EXCEL データを添付しない簡略な報告書）とをウェブサイトに掲載した。また，会員館毎に抽出した個別データの提供を開始した。2019 年 6 月，公開版の英語版要約「Open Access Publication and Article Processing Charges (APCs) in Japan：Report on the FY2018 Survey (Summary in English)」をウェブサイトに掲載[21]した。
- 2019 年度調査結果は，2020 年 2 月に前年度同様の形で会員館限定版報告書[22]と一般公開版報告書[23]とをウェブサイトに掲載し，2021 年 1 月に英語版要約[24]を公開した。2019 年度の調査では，2018 年度調査において集計していなかった主題別の集計を行った。

---

17 砂押久雄. 大学図書館コンソーシアム連合 2016 年度総会資料「国内研究者による論文公表に関する実態調査報告」（会員館限定）

18 小陳左和子, 矢野恵子. ジャーナル購読からオープンアクセス出版への転換に向けて：欧米の大学および大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）における取り組み. 大学図書館研究. 2018, no.109, 15p. https://doi.org/10.20722/jcul.2015（最終アクセス 2026.3.9）

19 JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2018 年度（会員館限定版）. 2019,（会員館限定）

20 JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2018 年度（公開版）. 2019, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2021-02/2018_ronbunchosa_0.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

21 JUSTICE. Open Access Publication and Article Processing Charges (APCs) in Japan：Report on the FY2018 Survey (Summary in English). 2019,（FY2020 公開以降，非公開）

22 JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2019 年度（会員館限定版）. 2020,（会員館限定）

23 JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2019 年度（公開版）. 2020, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2021-02/2019_ronbunchosa_0.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

24 JUSTICE. Open Access Publication and Article Processing Charges (APCs) in Japan：Report on the FY2019 Survey (Summary in English). 2021,（FY2020 公開以降，非公開）

- 2020 年度調査結果は，2021 年 3 月に会員館限定版報告書 [25]と一般公開版報告書 [26]をウェブサイトに掲載後，2021 年 9 月に図表データを追加公開，12 月に英語版要約 [27]を公開した。2020 年度の調査では，2019 年度調査において実施していなかった契約状況調査を活用した分析を行った。
- 2021 年度調査結果は，図表データを見直すことで調査報告書の会員館限定版と公開版の区別を廃止し，2022 年 3 月に「論文公表実態調査報告：2021 年度」[28]として公開した。また，2022 年 8 月に改訂を行った。
- 2023 年度調査結果は，2021 年度調査に 2 年分を追加し，2023 年 12 月に「論文公表実態調査報告：2023 年度」[29]として公開した。また，新たに助成機関別による集計を行った。2024 年 6 月に英語版要約 [30]を公開した。
- 2024 年度調査結果は OA 化の進展も踏まえ，調査対象を直近 5 年の 2019 年から 2023 年の出版論文に絞り込んで調査を実施し，2025 年 4 月に「論文公表実態調査報告：2024 年度」[31]として公開した。2025 年 9 月に英語版要約 [32]を公開した。

---

[25] JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2020 年度（会員館限定版）. 2021,（会員館限定）

[26] JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2020 年度（公開版）. 2021, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2021-04/2020_ronbunchosa.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

[27] JUSTICE. Open Access Publication and Article Processing Charges (APCs) in Japan：Report on the FY2020 Survey (Summary in English). 2021, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2021-12/OA_Pub_Japan_FY2020.pdf （最終アクセス 2026.3.9）

[28] JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2021 年度（2022 年 8 月 18 日改訂）. 2022, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2022-08/2021_ronbunchosa_0_20220818rev.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

[29] JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2023 年度（2023 年 12 月 27 日）. 2023, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2023-12/2023_ronbunchosa.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

[30] JUSTICE. Open Access Publication and Article Processing Charges (APCs) in Japan：Report on the FY2023 Survey (Summary in English). 2024, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2024-06/OA_Pub_Japan_FY2023.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

[31] JUSTICE. 論文公表実態調査報告 2024 年度（2025 年 3 月 31 日）. 2025, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2025-09/2024_ronbunchosa_rev.pdf（最終アクセス 2026.3.9）

[32] JUSTICE. Open Access Publication and Article Processing Charges (APCs) in Japan：Report on the FY2024 Survey (Summary in English). 2025, https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/justice/2025-09/OA_Pub_Japan_FY2024.pdf（最終アクセス 2026.3.9）